

Smalight[®] Configurator V1
リファレンスマニュアル

ご注意

安全設計に関するお願い

1. 弊社は品質、信頼性の向上に努めておりますが、半導体製品は故障が発生したり、誤動作する場合があります。弊社の半導体製品の故障又は誤動作によって結果として、人身事故、火災事故、社会的損害などを生じさせないような安全性を考慮した冗長設計、延焼対策設計、誤動作防止設計などの安全設計に十分ご注意ください。

本資料ご利用に際しての留意事項

1. 本資料は、お客様が用途に応じた適切な弊社製品をご購入いただくための参考資料であり、本資料中に記載の技術情報について弊社が所有する知的財産権その他の権利の実施、使用を許諾するものではありません。
2. 本資料に記載の製品データ、図、表、プログラム、アルゴリズムその他応用回路例の使用に起因する損害、第三者所有の権利に対する侵害に関し、弊社は責任を負いません。
3. 本資料に記載の製品データ、図、表、プログラム、アルゴリズムその他全ての情報は本資料発行時点のものであり、弊社は、予告なしに、本資料に記載した製品または仕様を変更することがあります。
4. 本資料に記載した情報は、正確を期すため、慎重に制作したのですが万一本資料の記述誤りに起因する損害がお客様に生じた場合には、弊社はその責任を負いません。
5. 本資料に記載の製品データ、図、表に示す技術的な内容、プログラム及びアルゴリズムを流用する場合は、技術内容、プログラム、アルゴリズム単位で評価するだけでなく、システム全体で十分に評価し、お客様の責任において適用可否を判断してください。弊社は、適用可否に対する責任を負いません。
6. 本資料に記載された製品は、人命にかかわるような状況の下で使用される機器あるいはシステムに用いられることを目的として設計、製造されたものではありません。本資料に記載の製品を運輸、移動体用、医療用、航空宇宙用、原子力制御用、海底中継用機器あるいはシステムなど、特殊用途へのご利用をご検討の際には、弊社へご照会ください。
7. 本資料の転載、複製については、文書による弊社の事前の承諾が必要です。
8. 本資料に関し詳細についてのお問い合わせ、その他お気付きの点がございましたら弊社までご照会ください。

Smalight、および、Smalight のロゴは、マクセルシステムテック株式会社の登録商標です。

μ TRON は、Micro Industrial TRON の略称です。

TRON は、The Realtime Operating system Nucleus の略称です。

その他、本書で登場するシステム名、製品名は各社の登録商標または商標です。

はじめに

このマニュアルは、コンパクトなシングルチップ向けOS: Smalight OS V3用に開発されたGUI構築支援ツール Smalight Configurator について説明します。

Smalight Configurator をご使用になる前に本説明書、及び、Smalight OSリファレンスマニュアル、使用するデバイスのハードウェアマニュアルをよく読んで理解してください。また下記関連マニュアルもお読みの上、理解してください。

【関連マニュアル】

- Smalight OS リファレンスマニュアル
- 使用するデバイスのハードウェアマニュアル
- 使用するコンパイラのマニュアル

目次

1. 概要	1
1.1 概要.....	1
1.2 特徴.....	1
1.3 動作環境.....	1
1.4 サポートOS.....	1
1.5 メインウィンドウ.....	2
1.5.1 タイトルバー.....	2
1.5.2 メニューバー.....	3
1.5.3 ツールバー.....	3
1.5.4 ツリービュー.....	4
1.5.5 メインビュー.....	4
1.5.6 アウトプットビュー.....	4
1.5.7 ステータスバー.....	4
2. インストール	5
3. 使用方法	6
3.1 Smalight Configuratorの起動.....	6
3.2 構築ファイルの選択.....	7
3.2.1 構築ファイル格納ディレクトリの選択.....	7
3.2.2 構築ファイルを個別に指定.....	9
3.3 CPU/カーネルマスケレベルの設定.....	11
3.4 タスクの設定.....	12
3.5 イベントフラグの設定.....	14
3.6 セマフォの設定.....	16
3.7 データキューの設定.....	18
3.8 時間管理の設定.....	20
3.9 周期ハンドラの設定.....	21
3.10 ツリービューによる設定内容の確認.....	23
3.11 メモリ見積りの確認.....	24
3.12 構築ファイルの作成.....	25
付録 A 変更履歴	27
付録 B メッセージ一覧	28
B.1 構築ファイル選択時.....	28
B.2 構築ファイル作成時.....	29

図表リスト目次

図1-1 Smalight Configurator 概要	1
図1-2 Smalight Configurator メインウィンドウ	2
図1-3 ツールバー	3
図3-1 Smalight Configuratorの起動	6
図3-2 構築ファイル格納ディレクトリの選択	7
図3-3 構築ファイル読み込み完了	8
図3-4 構築ファイル読み込みエラー	9
図3-5 構築ファイルの個別指定	10
図3-6 CPU/カーネルマスケレベルの設定	11
図3-7 タスクの設定	12
図3-8 タスク設定の変更	13
図3-9 イベントフラグの設定	14
図3-10 イベントフラグ属性の変更	15
図3-11 セマフォの設定	16
図3-12 セマフォ属性の変更	17
図3-13 データキューの設定	18
図3-14 データキュー属性の変更	19
図3-15 時間管理の設定	20
図3-16 周期ハンドラの設定	21
図3-17 周期ハンドラ属性の変更	22
図3-18 ツリービューによる設定確認	23
図3-19 メモリ見積の表示	24
図3-20 構築ファイル作成メニュー	25
図3-21 構築ファイル作成後のアウトプットビュー	26
表1-1 動作環境	1
表1-2 メニューバー一覧	3
表3-1 タスク一覧の項目	12
表3-2 イベントフラグ一覧の項目	14
表3-3 セマフォ一覧の項目	16
表3-4 データキュー一覧の項目	18
表3-5 周期ハンドラ一覧の項目	21

1. 概要

1.1 概要

Smalight Configurator (スマライト コンフィギュレータ)は、マクセルシステムテック株式会社が製造・販売する Smalight OS V3用に開発されたGUI構築支援ツールです。GUIによる簡単な操作により、Smalight OSの構築が容易に行なうことができます。

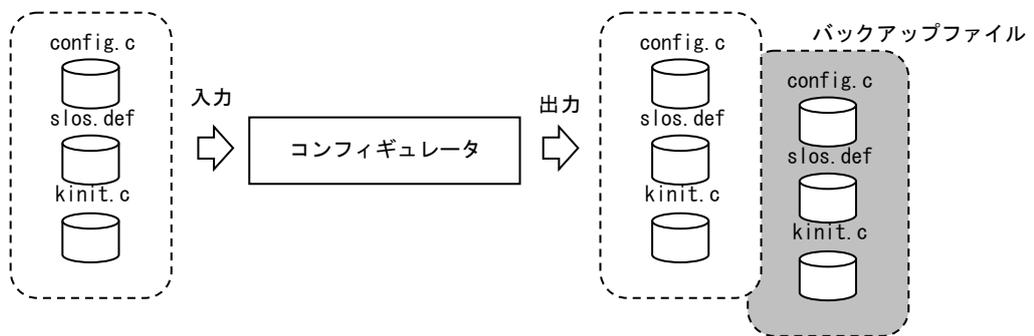


図1-1 Smalight Configurator 概要

1.2 特徴

- Smalight OS がサポートする全てのルネサスエレクトロニクス製マイコン対応製品を1つの GUI ツールで一括サポート
- GUI で Smalight OS 構築が容易に行なうことができます。
- 構築情報のエラーチェックによる、設定ミスが排除できます。
- メモリ見積り機能サポートによる OS メモリサイズが把握できます。

1.3 動作環境

表1-1 動作環境

項番	項目	詳細
1	PC/AT 互換機	Windows 2000, XP

1.4 サポート OS

Smalight OS V3 以降 (関連製品 Smalight TCP/IP, SDK, RSK に含まれる Smalight OS も対象)。

1.5 メインウィンドウ

Smalight Configurator のメインウィンドウの構成は以下の通りです。

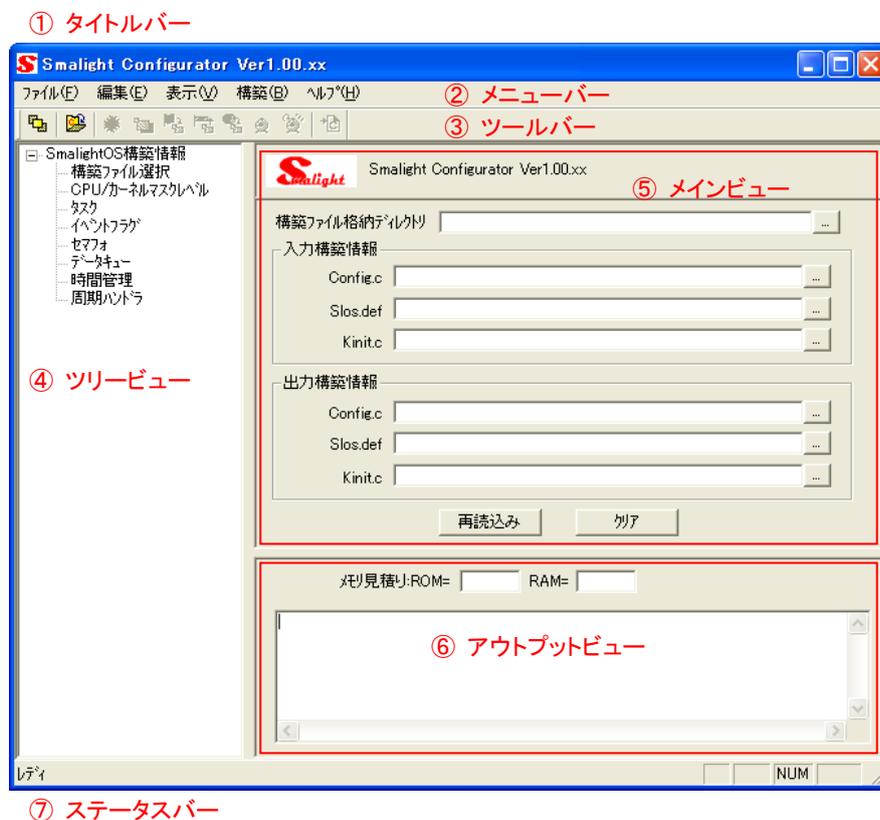


図1-2 Smalight Configurator メインウィンドウ

1.5.1 タイトルバー

タイトルバーには、アプリケーション名(Smalight Configurator)とバージョンを表示します。また、[最小化]ボタン、[最大化]ボタン、[閉じる]ボタンがあります。

1.5.2 メニューバー

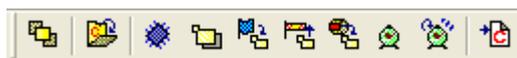
メニューバーには以下のメニューから構成されます。

表1-2 メニューバー一覧

項番	メニュー	メニューオプション	意味
1	ファイル(F)	最近使った構築情報	最近使った構築情報を3つまで記憶します。
2		アプリケーションの終了(X)	アプリケーションを終了します。
3	編集(E)	切り取り(T) Ctrl+X	文字列を切り取り、クリップボードへコピーします。
4		コピー(C) Ctrl+C	文字列をクリップボードへコピーします。
5		貼り付け(V) Ctrl+V	クリップボードから文字列を貼り付けます。
6	表示(V)	ツールバー(T)	ツールバーの表示・非表示を選択します(トグルボタン)
7		ステータスバー(S)	ステータスバーの表示・非表示を選択します(トグルボタン)
8		構築ファイル選択	メインビューに該当する設定フォームを表示します。
9		CPU/カーネルマスクレベル	
10		タスク	
11		イベントフラグ	
12		データキュー	
13		時間管理	
14	周期ハンドラ		
15	構築(B)	構築ファイル作成(O)	構築ファイルを作成します。
16	ヘルプ(H)	バージョン情報(A)	バージョンダイアログを表示します。

1.5.3 ツールバー

ツールバーには以下のメニューオプションがあります。



① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩

- ① メインビューの切り替え
- ② メインビューに[構築ファイルの選択]を表示
- ③ メインビューに[CPU/カーネルマスクレベル]を表示
- ④ メインビューに[タスク]を表示
- ⑤ メインビューに[イベントフラグ]を表示
- ⑥ メインビューに[セマフォ]を表示
- ⑦ メインビューに[データキュー]を表示
- ⑧ メインビューに[時間管理]を表示
- ⑨ メインビューに[周期ハンドラ]を表示
- ⑩ 構築ファイル作成

図1-3 ツールバー

1.5.4 ツリービュー

ツリービューにはメインビューの各設定フォームの一覧が表示されます。編集中は各オブジェクトの設定内容が一覧表示されます。

1.5.5 メインビュー

メインビューには、各設定フォームが表示されます。各フォームの詳細は「3 使用方法」を参照ください。

1.5.6 アウトプットビュー

アウトプットビューには、OSのメモリ見積りと各種メッセージが表示されます。各フォームの詳細は「3 使用方法」を参照ください。

1.5.7 ステータスバー

現在の状態を表示します。

2. インストール

Smalight Configurator (スマライト コンフィギュレータ)のインストールは、以下の手順に従い行ってください。

- (1) Smalight OS をインストールしたディレクトリ上に “configurator”ディレクトリを作成します。

デフォルトのインストールディレクトリ

```
<C:¥smalight> - <os>  
                - <doc>  
                - <configurator>
```

- (2) マクセルシステムテック株式会社のホームページから Smalight Configurator をダウンロードし、“configurator”上に格納・解凍します。

3. 使用方法

3.1 Smalight Configurator の起動

- (1) インストール先に格納される SmalightConfigurator.exe をダブルクリックし、Smalight Configurator を起動します。

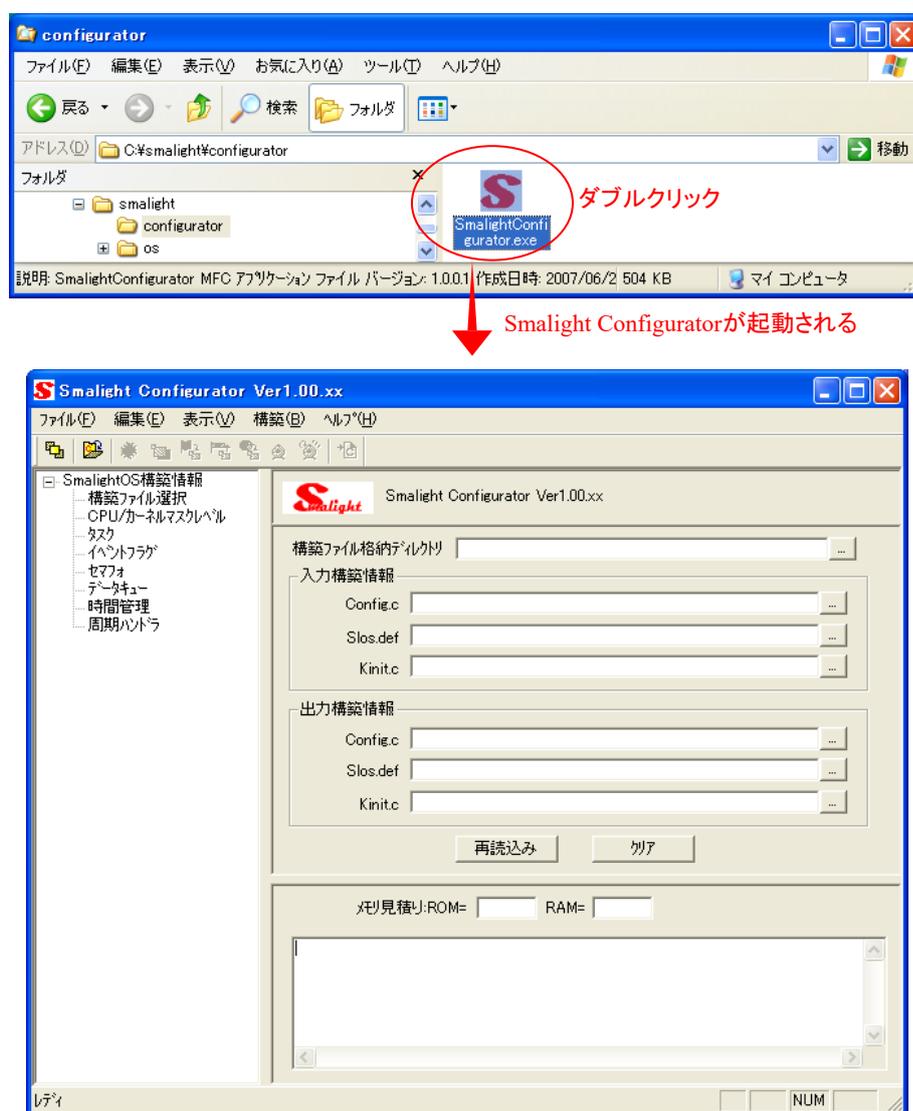


図3-1 Smalight Configuratorの起動

3.2 構築ファイルの選択

Smalight OS の構築情報を編集するために、はじめに、構築ファイルを選択する必要があります。構築ファイルとは、smalight os で提供される config.c kinit.c slos.def の 3 つのファイルです。

3.2.1 構築ファイル格納ディレクトリの選択

構築ファイルを選択する一番簡単な方法は「構築ファイル格納ディレクトリ」を選択することです。

「構築ファイル格納ディレクトリ」とは、Smalight OS に含まれる OS 格納ディレクトリを指します。Smalight OS 提供の環境下では、通常、OS 格納ディレクトリに3つの構築ファイルが格納されております。

構築ファイル格納ディレクトリの選択手順は、

- ① [構築ファイル格納ディレクトリ選択]ボタンをクリック。
⇒ [フォルダの参照]ダイアログが表示
- ② [フォルダの参照]ダイアログで”構築ファイル格納ディレクトリ”を選択後、
[OK]ボタンをクリック。

となります。

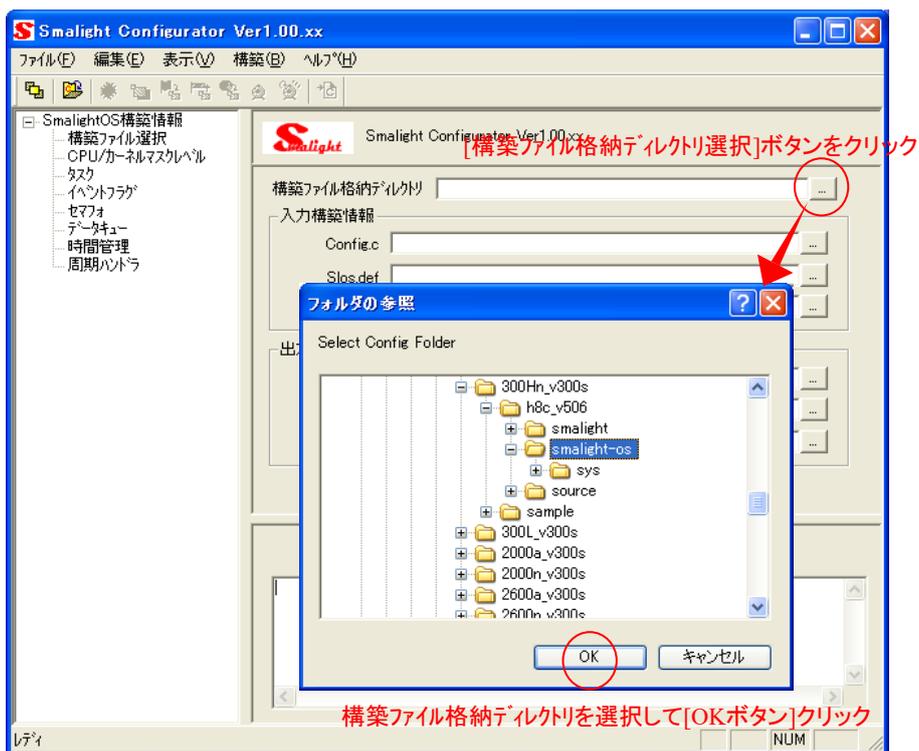


図3-2 構築ファイル格納ディレクトリの選択

構築ファイルが正しく読み込まれると、以下の様に ”ファイル読み込み: OK” というメッセージが出力されます。

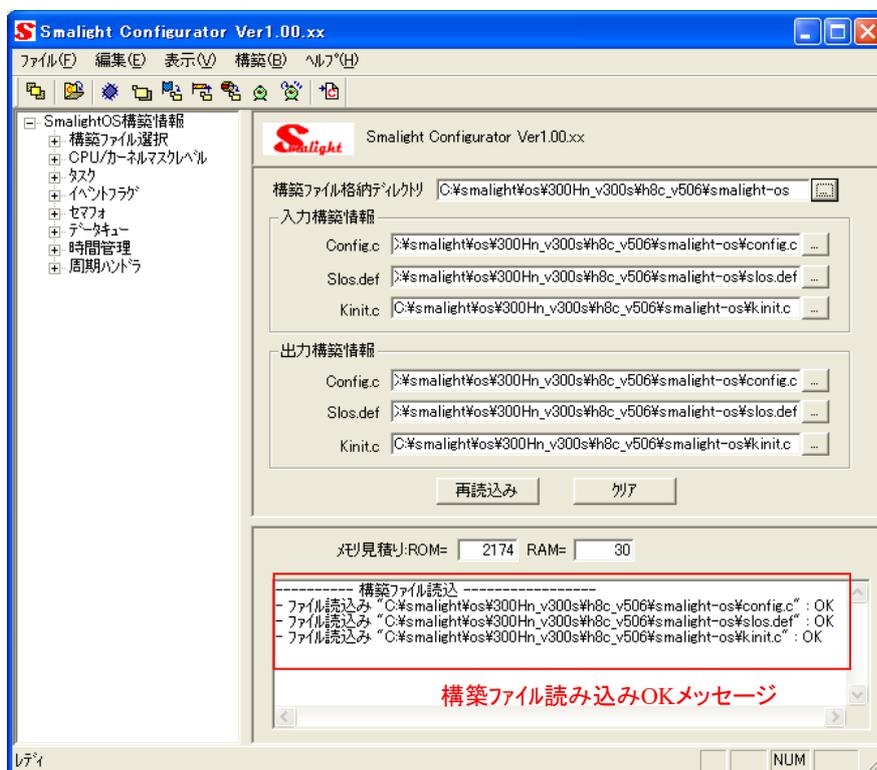


図3-3 構築ファイル読み込み完了

構築ファイル格納ディレクトリを指定することで、入力構築情報と出力構築情報の config.c、slos.def、kinit.c テキストボックスに、各ファイル名が絶対パスで設定されます。この場合、入力構築情報側と出力構築情報側は同じファイル名が設定されます。

例えば、Smalight OS V2の構築情報を開いた場合、“(E)ファイルが見つかりません”メッセージが出力されま
す。その場合、構築情報の編集はできません。Smalight OS V3の構築情報を正しく選択してください。

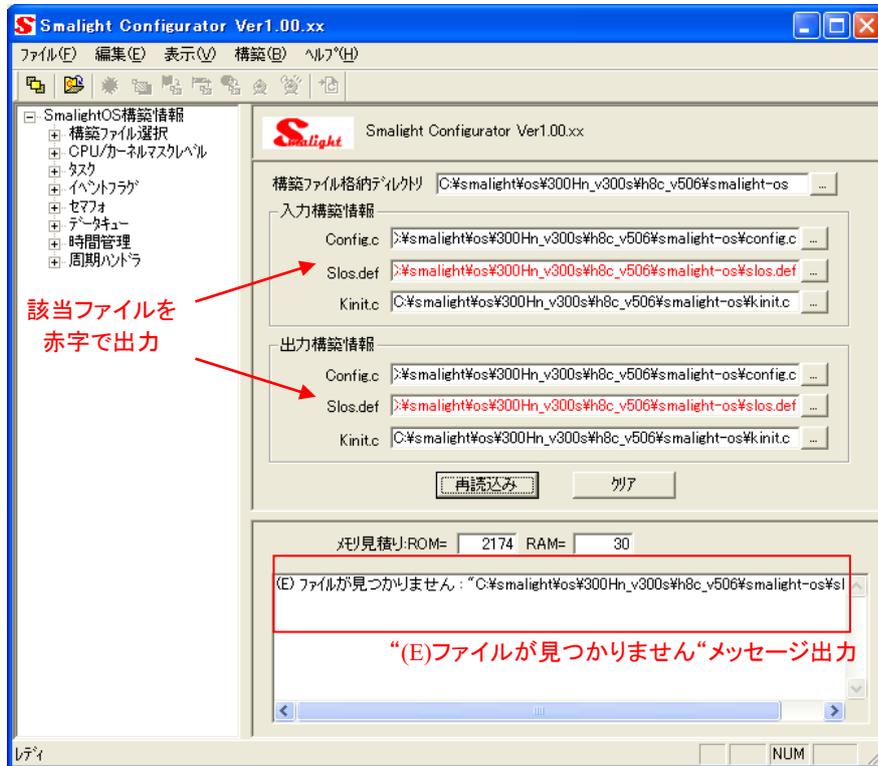


図3-4 構築ファイル読み込みエラー

3.2.2 構築ファイルを個別に指定

構築ファイルの読み込み時、入力ファイル、出力ファイルを個別に指定することも可能です。個別に指定する
ケースとしては、

- Smalight OS V3のワークスペース側で、config.c kinit.c slos.defの格納場所を変更した場合、
- 変更履歴を考慮して、入力ファイルと出力ファイルを区別したい場合(コンフィギュレータでバックアップファ
イルは作成されます)。
- アプリケーションのバージョンアップ、移植などで、母体となる構築情報を流用したい場合(例えば、製品
のシリーズ展開で、R8C/TinyからM16CへCPUを変更するとき、Smalight OSプラットフォーム上で上位ア
プリケーション移植)

構築ファイルを個別指定する手順は、

- ① 個別指定したいファイルのボタンをクリック。

⇒ [ファイルを開く]ダイアログが表示

- ② [ファイルを開く]ダイアログで個別指定したいファイルを選択後、[OK]ボタンをクリック。

- ③ 個別に指定したファイルを確認後、[再読み込み]ボタンをクリック。

となります。

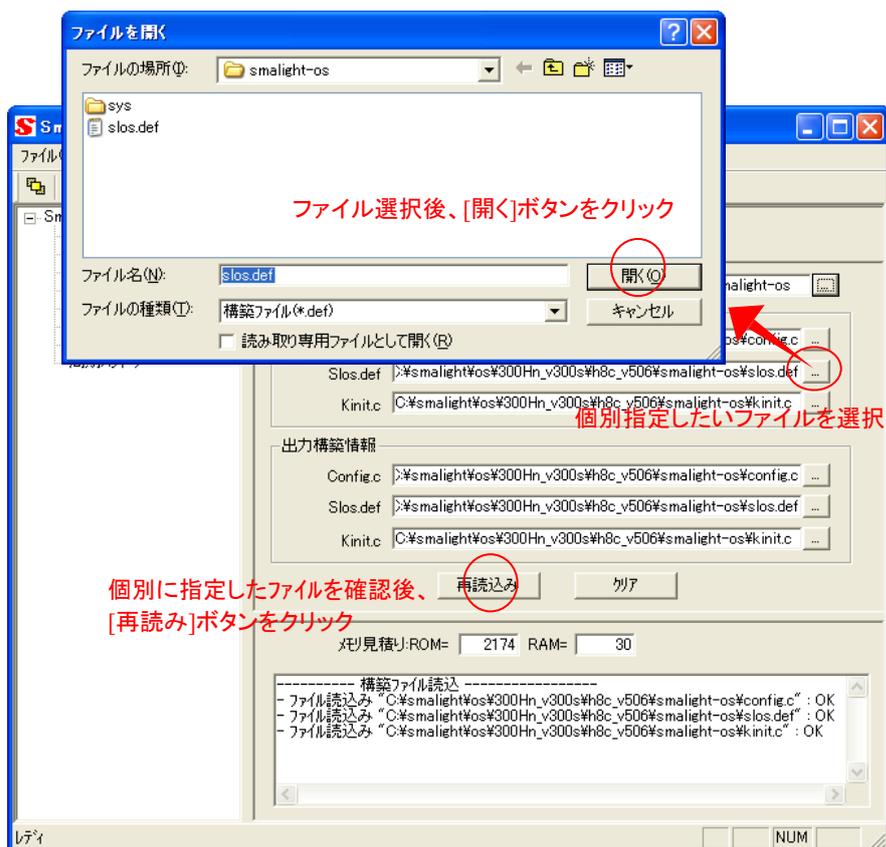


図3-5 構築ファイルの個別指定

構築ファイルの選択完了後、各種設定を行います。

3.3 CPU／カーネルマスクレベルの設定

構築ファイルの選択完了後、[CPU/カーネルマスクレベル]をメインビューに表示することで設定できます。以下に[CPU/カーネルマスクレベル]設定画面を表示します。

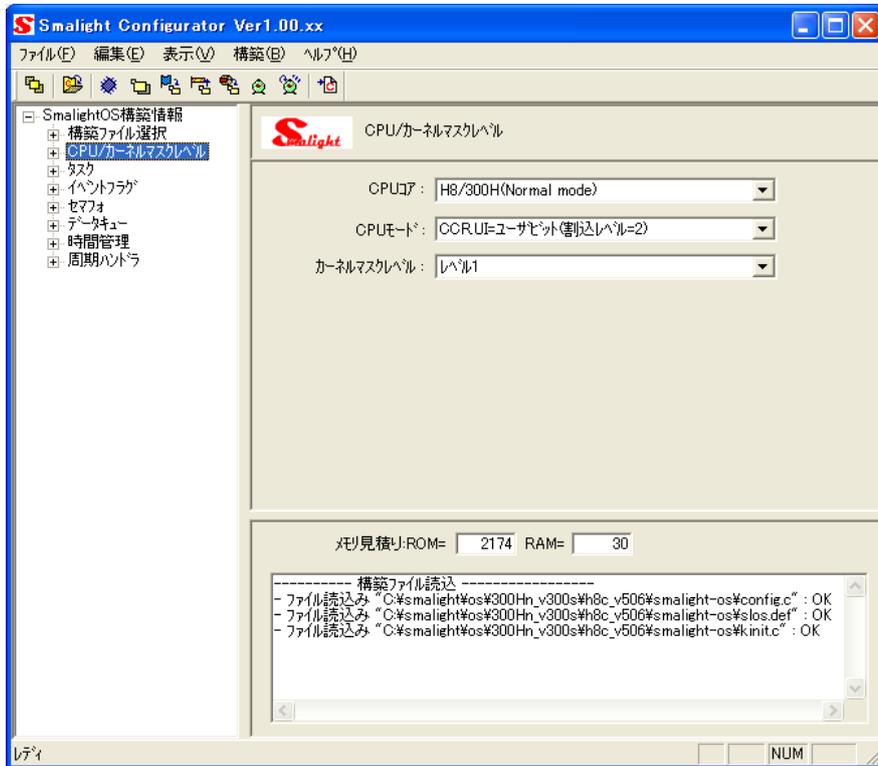


図3-6 CPU/カーネルマスクレベルの設定

設定項目は、[CPU コア]、[CPU モード]、[カーネルマスクレベル]で、プルダウンリストより選択します。選択される[CPU コア]により、選択可能な[CPU モード]、[カーネルマスクレベル]の内容が変わります。

詳細はご使用するCPUの「ハードウェアマニュアル」、及び、「Smalight OS V3 リファレンスマニュアル」を参照ください。

3.4 タスクの設定

構築ファイルの選択完了後、[タスク]をメインビューに表示することで設定できます。以下に[タスク]設定画面を表示します。

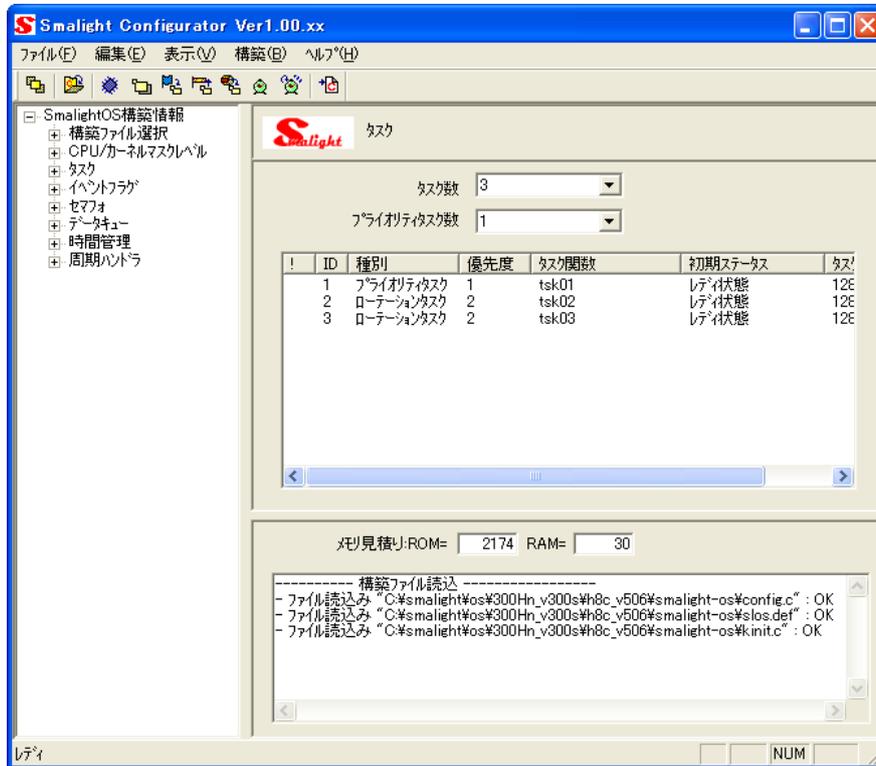


図3-7 タスクの設定

- (1) タスクの設定では、まず、使用するタスク数、及び、プライオリタタスク数を選択します。タスク数には、1～127 が設定できます。プライオリタタスク数は 0 以上の値で、最大値はタスク数になります。
- (2) タスク数を変更することで、タスク一覧の内容がタスク数に合わせて変更されます。タスク一覧に表示される項目は以下の通りです。

表3-1 タスク一覧の項目

項番	項目	意味
1	!	設定が初期値の場合、'*'を表示します(設定漏れ防止用フラグ)。
2	ID	タスクIDを表示します。タスク数を設定することで自動的に決定します。
3	種別	タスク種別(プライオリタタスク、ローテーションタスク)を表示します。プライオリタタスク数を設定することで自動的に決定します。
4	優先度	タスク優先度を表示します。タスク優先度は 1 が高く、値が大きい程低くなります。タスク数、プライオリタタスク数を設定することで自動的に決定します。
5	タスク関数	タスク関数を表示します。
6	初期ステータス	初期ステータスを表示します。
7	タスクスタックサイズ	タスクスタックを表示します。

- (3) タスク毎の設定は、まずタスク一覧から編集したいタスクを選択し、ダブルクリックします。[タスクの設定]ダイアログが表示されます。タスク関数、初期ステータス、タスクスタックサイズを編集し、[OK]ボタンをクリックすると[タスクの設定]ダイアログがクローズされ設定が反映されます。[OK]ボタンをクリックしたとき、変更内容に問題があれば、エラーダイアログが表示されます。

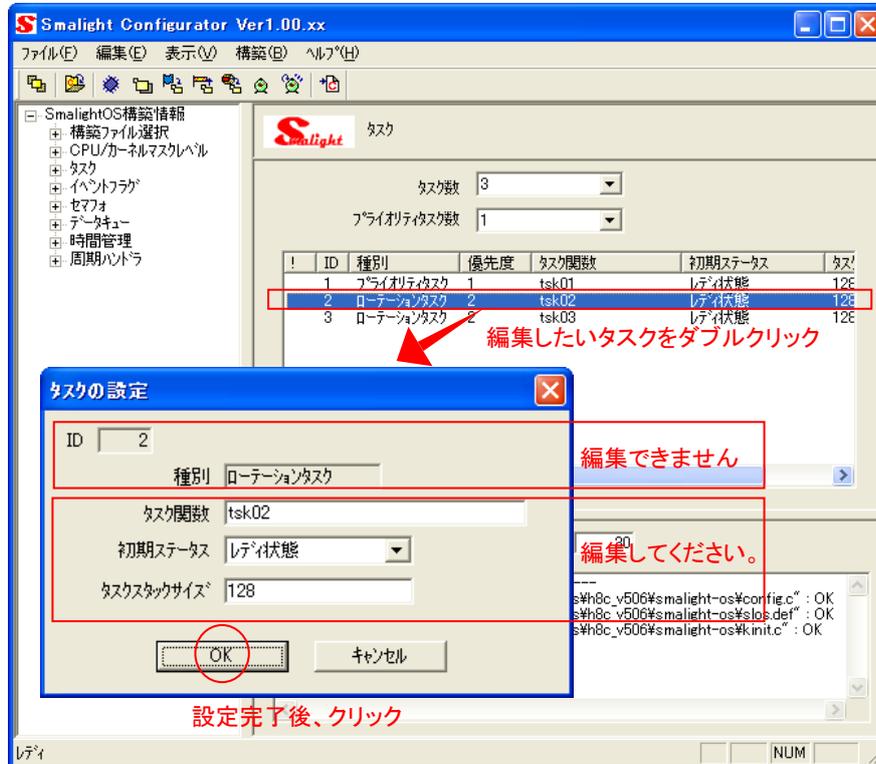


図3-8 タスク設定の変更

3.5 イベントフラグの設定

構築ファイルの選択完了後、[イベントフラグ]をメインビューに表示することで設定できます。以下に[イベントフラグ]設定画面を表示します。

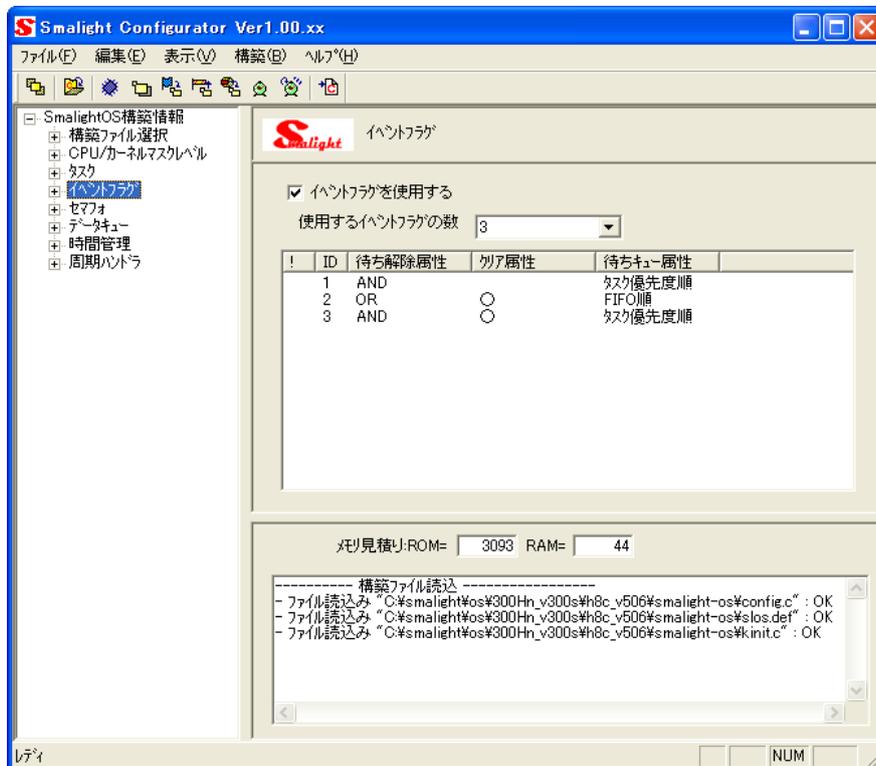


図3-9 イベントフラグの設定

- (1) イベントフラグの設定では、まず、[イベントフラグを使用する]チェックボックスでイベントフラグの要否を設定します。チェックをすることでイベントフラグが有効になります。不要な場合、チェックを外すことでメモリ使用量を低減できます。
- (2) 使用するイベントフラグの数を選択します。イベントフラグの数には、1～127 が設定できます。
- (3) イベントフラグの数を変更することで、イベントフラグ一覧の内容がイベントフラグの数に合わせて変更されます。イベントフラグ一覧に表示される項目は以下の通りです。

表3-2 イベントフラグ一覧の項目

項番	項目	意味
1	!	設定が初期値の場合、'*'を表示します(設定漏れ防止用フラグ)。
2	ID	イベントフラグIDを表示します。イベントフラグ数を設定することで自動的に決定します。
3	待ち解除属性	待ち解除属性(AND、OR)を表示します。
4	クリア属性	クリア属性の有無を表示します。
5	待ちキュー属性	待ちキュー属性(タスク優先度順、FIFO順)を表示します。

- (3) イベントフラグ属性の設定は、まずイベントフラグ一覧から編集したいイベントフラグを選択し、ダブルクリックします。[イベントフラグ属性の設定]ダイアログが表示されます。待ち解除属性、クリア属性、待ちキュー属性を編集し、[OK]ボタンをクリックすると[イベントフラグ属性の設定]ダイアログがクローズされ設定が反映されます。[OK]ボタンをクリックしたとき、変更内容に問題があれば、エラーダイアログが表示されます。

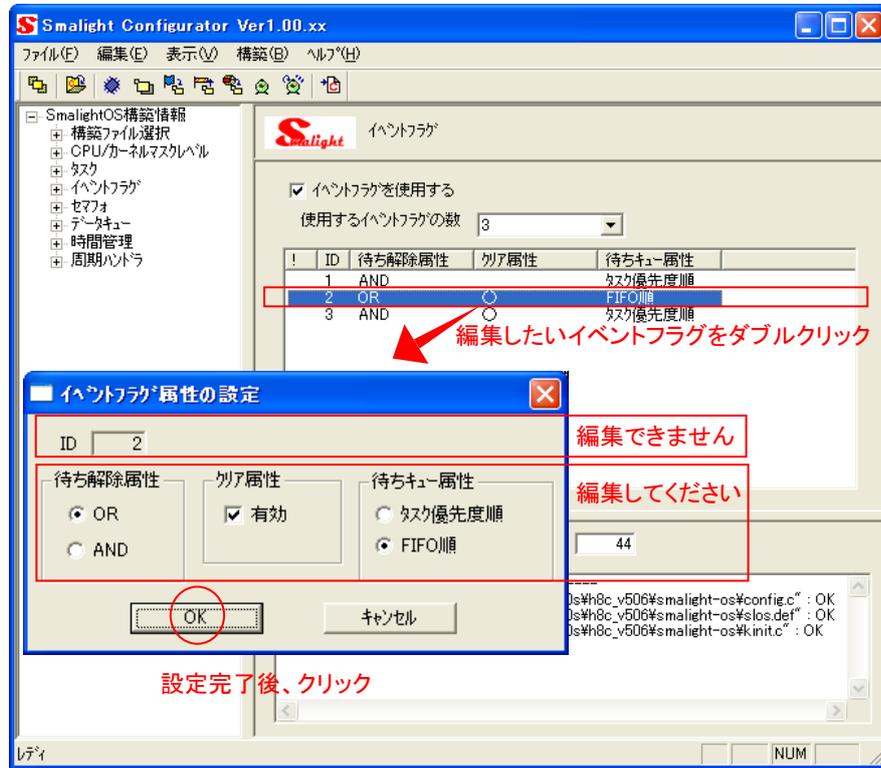


図3-10 イベントフラグ属性の変更

3.6 セマフォの設定

構築ファイルの選択完了後、[セマフォ]をメインビューに表示することで設定できます。以下に[セマフォ]設定画面を表示します。

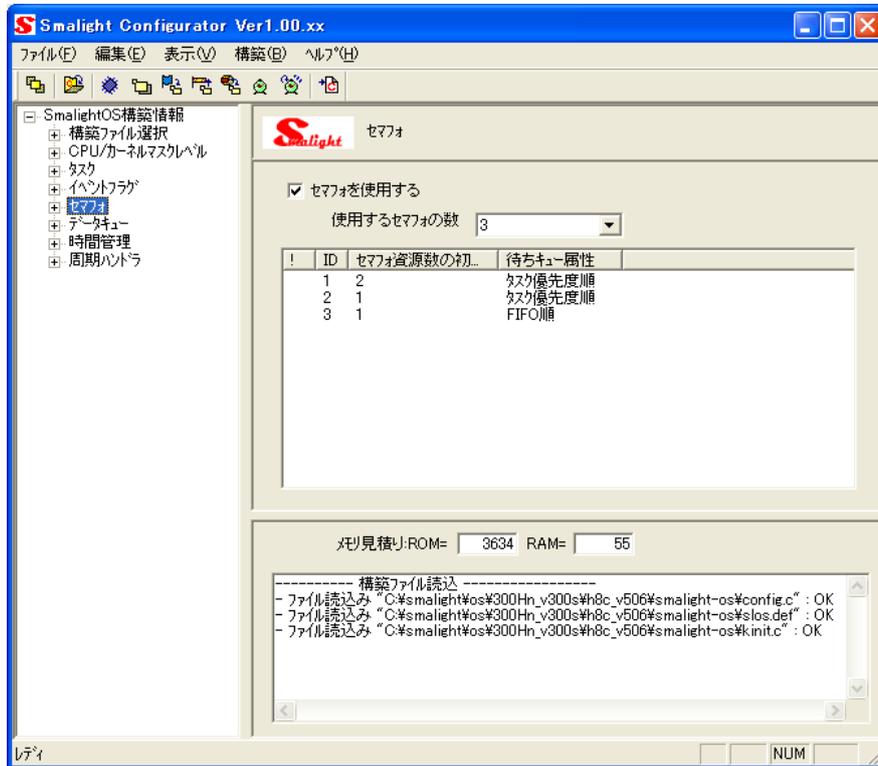


図3-11 セマフォの設定

- (1) セマフォの設定では、まず、[セマフォを使用する]チェックボックスでセマフォの可否を設定します。チェックをすることでセマフォが有効になります。不要な場合、チェックを外すことでメモリ使用量を低減できます。
- (2) 使用するセマフォの数を選択します。セマフォの数には、1～127 が設定できます。
- (3) セマフォの数を変更することで、セマフォ一覧の内容がセマフォの数に合わせて変更されます。セマフォ一覧に表示される項目は以下の通りです。

表3-3 セマフォ一覧の項目

項番	項目	意味
1	!	設定が初期値の場合、'!'を表示します(設定漏れ防止用フラグ)。
2	ID	セマフォIDを表示します。セマフォ数を設定することで自動的に決定します。
3	セマフォ資源数の初期値	セマフォ資源数の初期値を表示します(0～255)。
4	待ちキュー属性	待ちキュー属性(タスク優先度順、FIFO順)を表示します。

- (3) セマフォ属性の設定は、まずセマフォ一覧から編集したいセマフォを選択し、ダブルクリックします。[セマフォ属性の設定]ダイアログが表示されます。セマフォ資源数の初期値、待ちキュー属性を編集し、[OK]ボタンをクリックすると[セマフォ属性の設定]ダイアログがクローズされ設定が反映されます。[OK]ボタンをクリックしたとき、変更内容に問題があれば、エラーダイアログが表示されます。

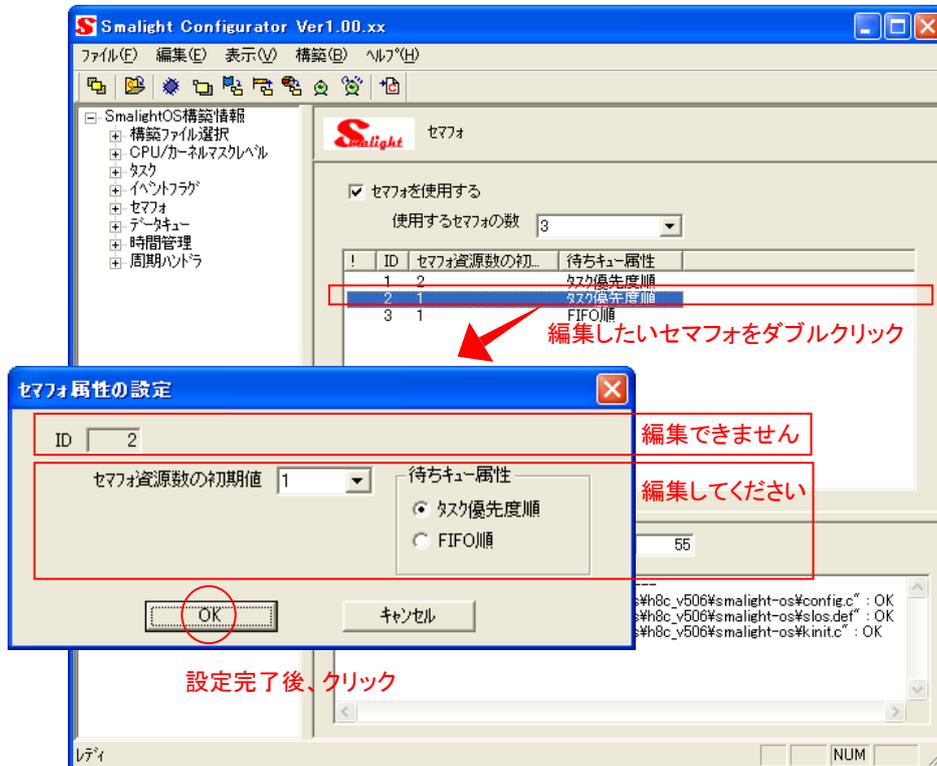


図3-12 セマフォ属性の変更

3.7 データキューの設定

構築ファイルの選択完了後、[データキュー]をメインビューに表示することで設定できます。以下に[データキュー]設定画面を表示します。

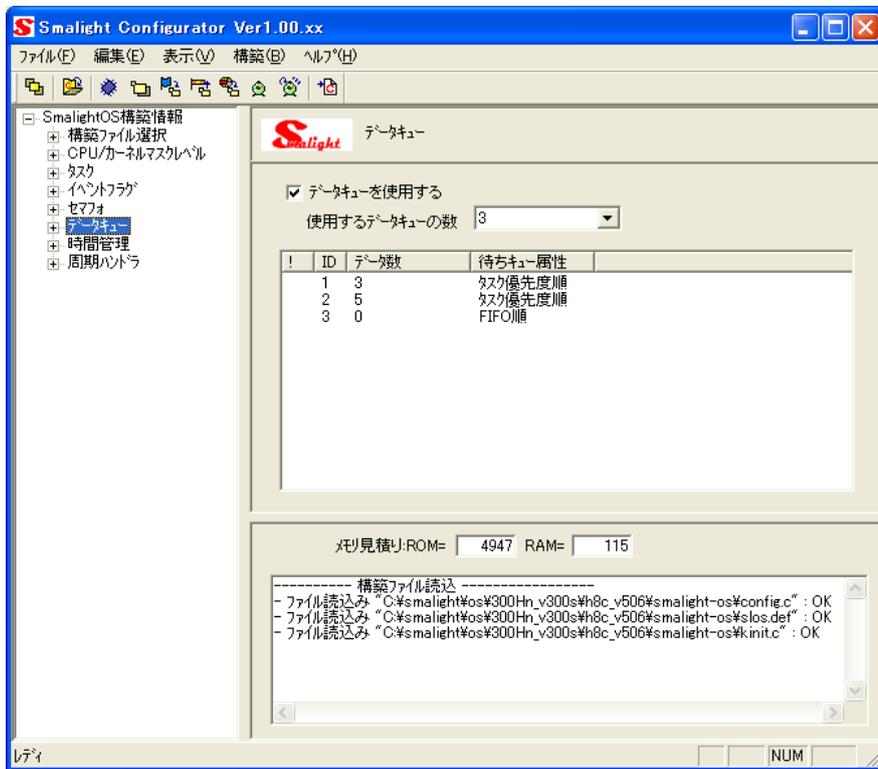


図3-13 データキューの設定

- (1) データキューの設定では、まず、[データキューを使用する]チェックボックスでデータキューの要否を設定します。チェックをすることでデータキューが有効になります。不要な場合、チェックを外すことでメモリ使用量を低減できます。
- (2) 使用するデータキューの数を選択します。データキューの数には、1～127 が設定できます。
- (3) データキューの数を変更することで、データキュー一覧の内容がデータキューの数に合わせて変更されます。データキュー一覧に表示される項目は以下の通りです。

表3-4 データキュー一覧の項目

項番	項目	意味
1	!	設定が初期値の場合、'!'を表示します(設定漏れ防止用フラグ)。
2	ID	データキューIDを表示します。データキュー数を設定することで自動的に決定します。
3	データ数	データ数を表示します(0～127)。
4	待ちキュー属性	待ちキュー属性(タスク優先度順、FIFO順)を表示します。

- (3) データキュー属性の設定は、まずデータキュー一覧から編集したいデータキューを選択し、ダブルクリックします。[データキュー属性の設定]ダイアログが表示されます。データ数、待ちキュー属性を編集し、[OK]ボタンをクリックすると[データキュー属性の設定]ダイアログがクローズされ設定が反映されます。[OK]ボタンをクリックしたとき、変更内容に問題があれば、エラーダイアログが表示されます。

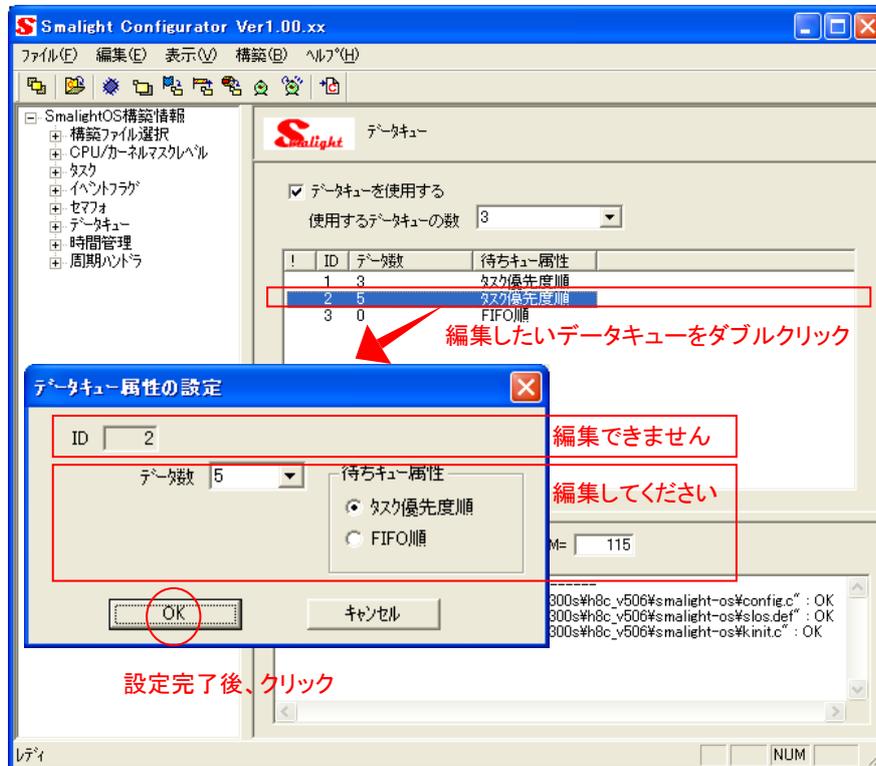


図3-14 データキュー属性の変更

3.8 時間管理の設定

構築ファイルの選択完了後、[時間管理]をメインビューに表示することで設定できます。以下に[時間管理]設定画面を表示します。

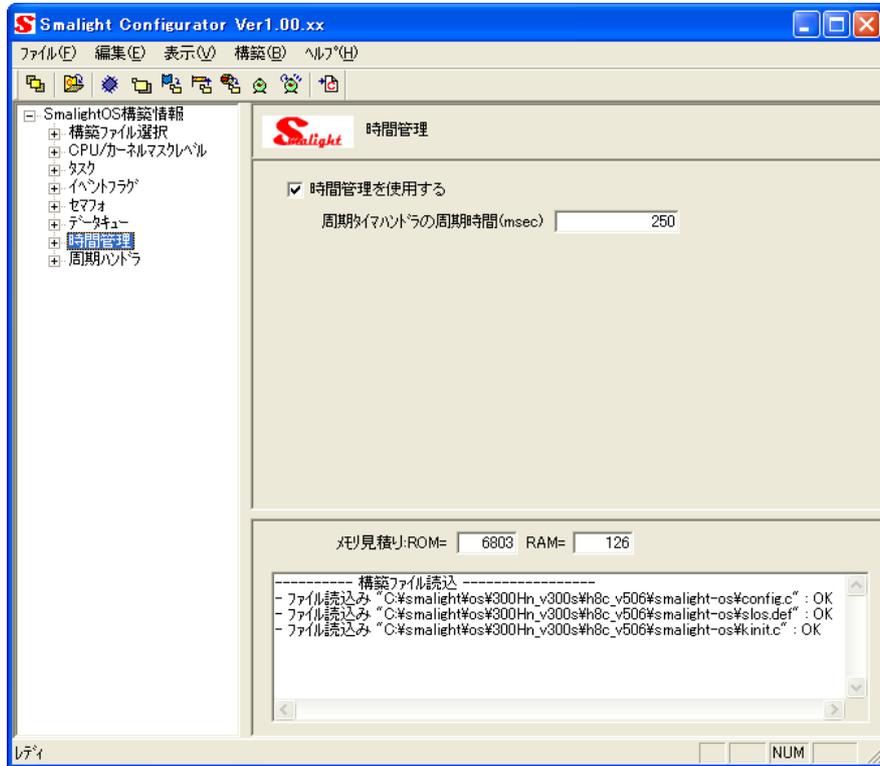


図3-15 時間管理の設定

- (1) データキューの設定では、まず、[時間管理を使用する]チェックボックスで時間管理の可否を設定します。チェックをすることでデータキューが有効になります。不要な場合、チェックを外すことでメモリ使用量を低減できます。
- (2) 時間管理の周期ハンドラの周期時間(msec)を設定します。周期時間はユーザ任意です。

3.9 周期ハンドラの設定

構築ファイルの選択完了後、[周期ハンドラ]をメインビューに表示することで設定できます。以下に[周期ハンドラ]設定画面を表示します。

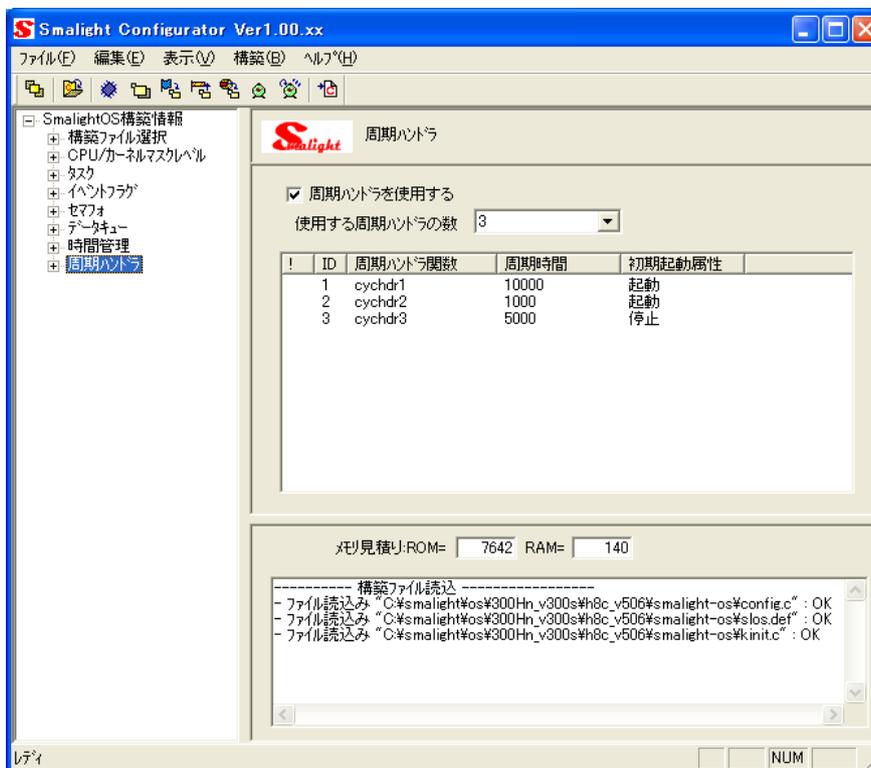


図3-16 周期ハンドラの設定

- (1) データキューの設定では、まず、[周期ハンドラを使用する]チェックボックスで周期ハンドラの可否を設定します。チェックをすることで周期ハンドラが有効になります。不要な場合、チェックを外すことでメモリ使用量を低減できます。
 ※ 本チェックボタンは時間管理が有効になっていない状態で ON に設定することができません。時間管理を有効にした後に、本チェックボタンを有効にしてください。
- (2) 使用する周期ハンドラの数を選択します。周期ハンドラの数には、1～127 が設定できます。
- (3) 周期ハンドラの数を変更することで、周期ハンドラ一覧の内容が周期ハンドラの数に合わせて変更されません。周期ハンドラ一覧に表示される項目は以下の通りです。

表3-5 周期ハンドラ一覧の項目

項番	項目	意味
1	!	設定が初期値の場合、'!'を表示します(設定漏れ防止用フラグ)。
2	ID	周期ハンドラIDを表示します。周期ハンドラを設定することで自動的に決定します。
3	周期ハンドラ関数	周期ハンドラ関数を表示します。
4	周期時間	周期時間を表示します。単位は msec です。
5	初期起動属性	初期起動属性(起動、停止)を表示します。

- (3) 周期ハンドラの設定は、まず周期ハンドラ一覧から編集したい周期ハンドラを選択し、ダブルクリックします。[周期ハンドラ属性の設定]ダイアログが表示されます。周期ハンドラ関数、周期時間、初期起動属性を編集し、[OK]ボタンをクリックすると[周期ハンドラ属性の設定]ダイアログがクローズされ設定が反映されます。[OK]ボタンをクリックしたとき、変更内容に問題があれば、エラーダイアログが表示されません。

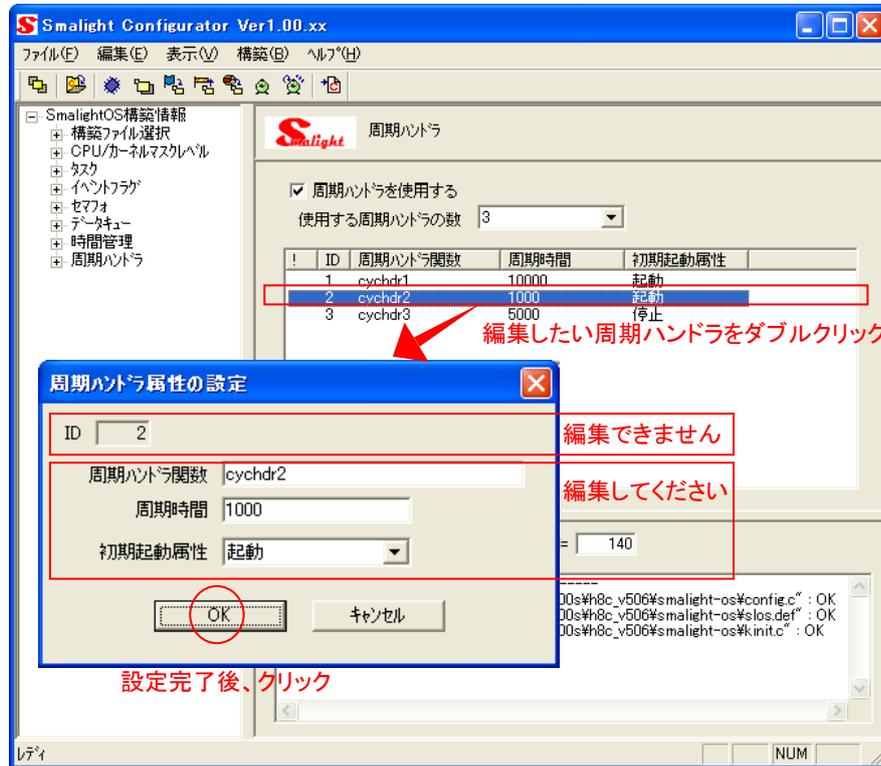


図3-17 周期ハンドラ属性の変更

3.10 ツリービューによる設定内容の確認

ツリービューで各オブジェクトの設定内容を一覧表示することができます。

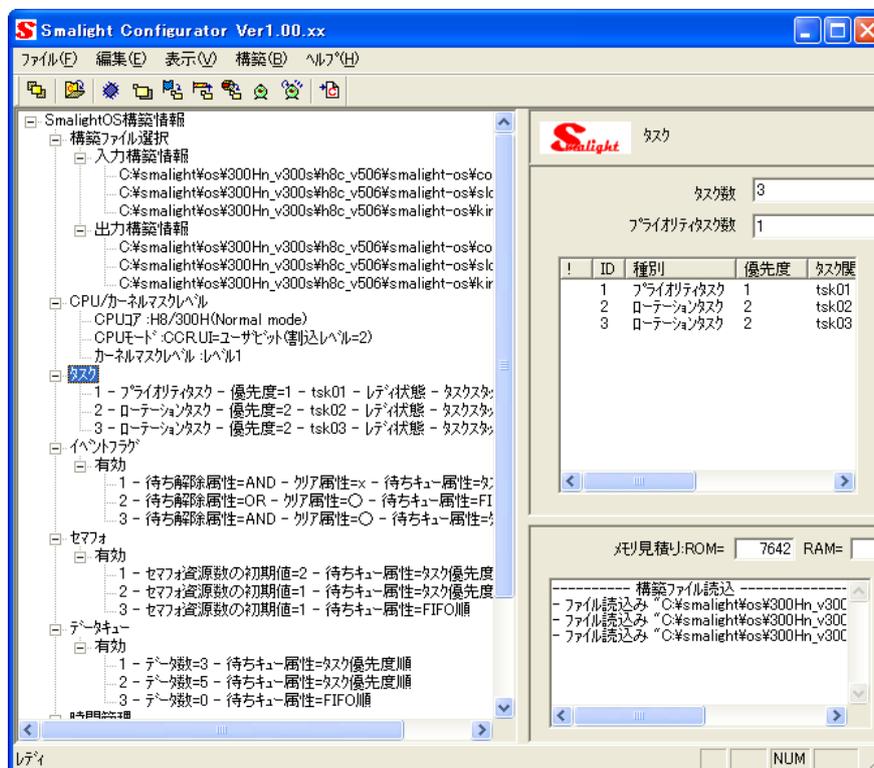


図3-18 ツリービューによる設定確認

3.11 メモリ見積りの確認

Smalight Configurator では OS が使用するメモリ使用量を、構築情報の設定から自動的に算出して表示しております。メモリ使用量を検討する際に活用ください。

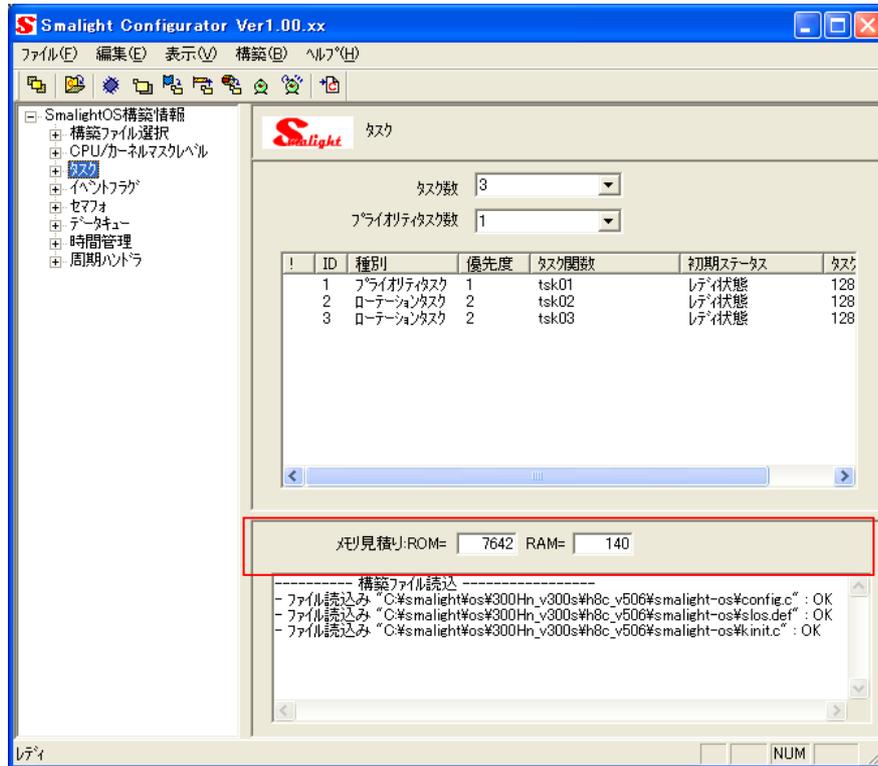


図3-19 メモリ見積りの表示

- ※ Smalight OS 本体のメモリ使用量を算出したもので、アプリケーション全体を表示するものではありません。
- ※ タスクスタックは含まれません。
- ※ OS ライブラリの再構築時のメモリ見積りは対応しておりません。メモリ容量が厳しい場合は、不要な機能を外して再構築することで更に、OS のメモリを節約できます。
- ※ メモリ見積りは、事前に十分な評価をしておりますが、セクション配置、4 バイト境界、2 バイト境界によりマッピングのズレなどの影響でサイズが変わる恐れがあります。

3.12 構築ファイルの作成

OS 構築情報を設定完了後、[構築]-[構築ファイル作成]メニューを選択すると、構築ファイルを生成します。

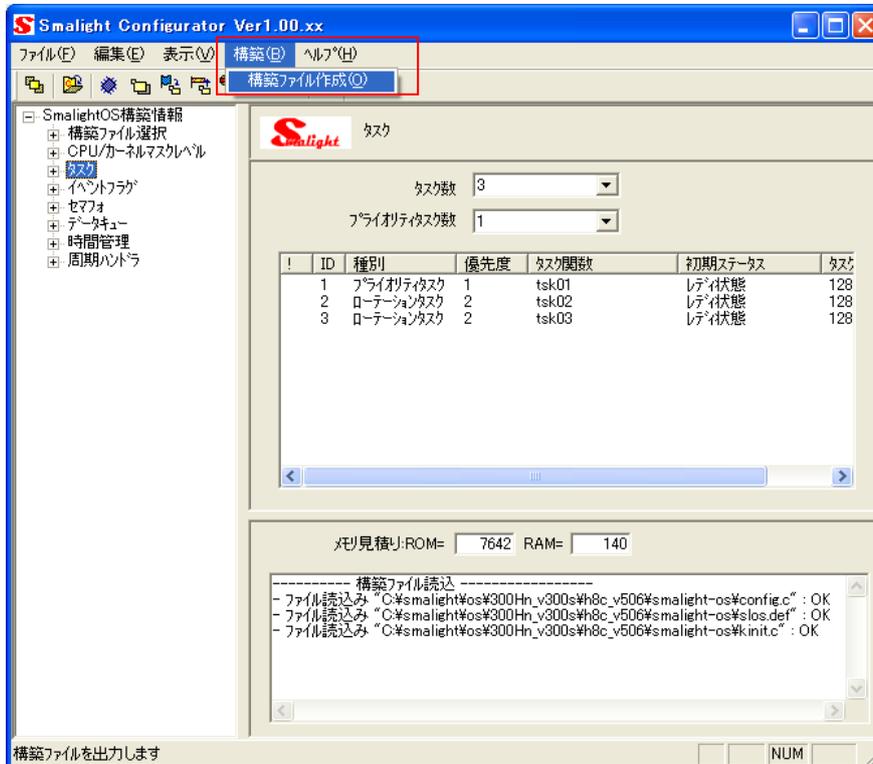


図3-20 構築ファイル作成メニュー

構築ファイル作成を実行すると

- ① 既存の構築ファイルのバックアップします。ファイル名は *.c.bk001 (001 の部分はインクリメント)となります。
- ② 設定内容をチェックし、問題があればワーニングメッセージをアウトプットビューに出力します。
- ③ 設定内容を構築ファイルへ出力します。出力ファイルの詳細は、構築ファイル選択ビューの出力構築情で確認できます。ファイルが作成できない場合はエラー出力されます。

以下に、構築ファイル作成時のアウトプットビューの表示例を示します。

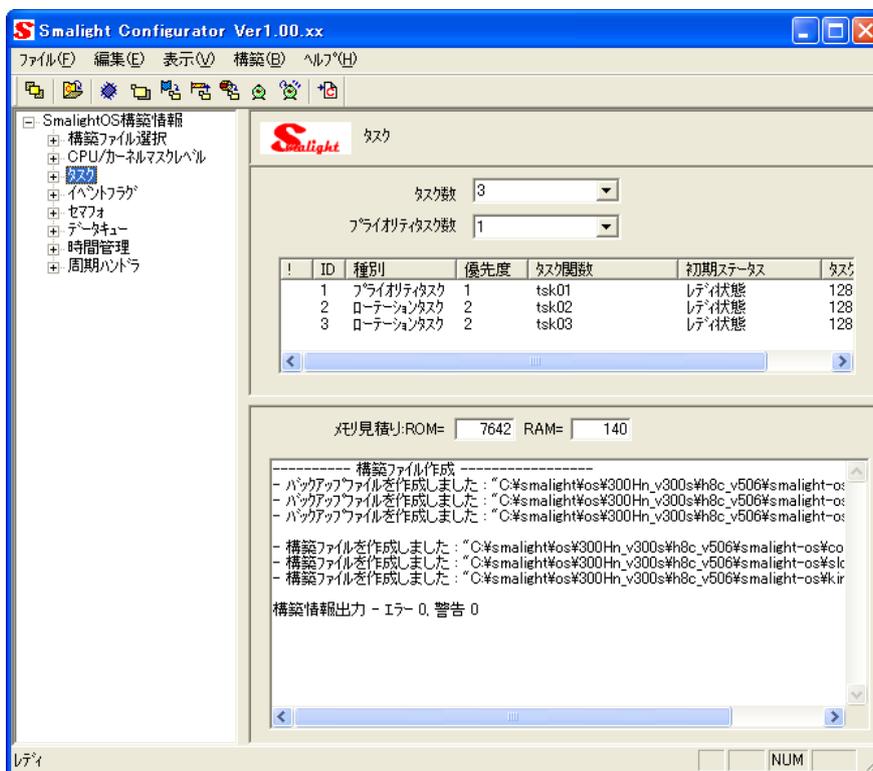


図3-21 構築ファイル作成後のアウトプットビュー

付録 A 変更履歴

【V1.00.06】

- (1) 初版

【V1.00.07】

- (1) 周期ハンドラを有効している状態で時間管理を無効にすると、メモリ見積、および、kinit 出力内容が不正となる問題を対策しました。
- (2) コンフィギュレータの設定情報をツリービュー出力する機能をサポートしました。

【V1.00.08】

- (1) 構築ファイルから読み込んだ[CPU モード]、[カーネルマスクレベル]の設定値が不正に表示される問題を対策しました。
- (2) [File]メニューの[最近使った構築情報]の表示内容が不正となる問題を対策しました。

【V1.00.10】

- (1) サポート CPU として、H8SX, H8S/Tiny を追加しました。

【V1.00.11】

- (1) サポート CPU として、SH-2A, SH2A-FPU を追加しました。

【V1.00.12】

- (1) サポート CPU として、RX600 を追加しました。

【V1.00.13】

- (1) サポート CPU として、SH-4A を追加しました。

【V1.00.14】

- (1) サポート CPU として、RL78 を追加しました。

【V1.00.15】

- (1) サポート CPU として、RX200 を追加しました。

【V1.00.16】

- (1) サポート CPU として、SH-4 を追加しました。

【V1.00.17】

- (1) サポート CPU として、RL78(CC-RL コンパイラ用)を追加しました。

【V1.00.18】

- (1) サポート CPU の RX200, RX600 を RXv1(FPU)、RXv1(noFPU)、RXv2(FPU)に修正しました。

付録 B メッセージ一覧

B.1 構築ファイル選択時

- (E) ファイル読み込み "構築ファイル名": NG
(エラー) 構築ファイルの読み込みに失敗しました
- (E) ファイルが見つかりません: "構築ファイル名"
(エラー) 指定した構築ファイルが見つかりません
- (W) CPU が解析できませんでした。CPU は"H8/300H Normal mode"を仮設定します。
(ワーニング) CPU の解析に失敗しました。H8/300H Normal mode を仮設定します
- (W) CPU モードが解析できませんでした。""CCR.UI=マスクビット(割込レベル=2)""を仮設定します。
(ワーニング) CPU モードの解析に失敗しました。CCR.UI=マスクビット(割込レベル=2)を仮設定します
- (W) CPU モードが解析できませんでした。""割込み制御モード 2""を仮設定します。
(ワーニング) CPU モードの解析に失敗しました。割込み制御モード 2 を仮設定します
- (W) カーネルマスクレベルが解析できませんでした。"レベルx"を仮設定します。
(ワーニング) カーネルマスクレベルの解析に失敗しました。レベルxを仮設定します。
- (W) タスク数が解析できませんでした。"タスク数=x(プライオリタタスク数=x)"を仮設定します。
(ワーニング) タスク数の解析に失敗しました。タスク数=x(プライオリタタスク数=x)を仮設定します
- (W) イベントフラグ数が解析できませんでした。"イベントフラグ数=x"を仮設定します。
(ワーニング) イベントフラグ数の解析に失敗しました。イベントフラグ数=xを仮設定します
- (W) セマフォ数が解析できませんでした。"セマフォ数=x"を仮設定します。
(ワーニング) セマフォ数の解析に失敗しました。セマフォ数=xを仮設定します
- (W) データキュー数が解析できませんでした。"データキュー数=%d"を仮設定します。
(ワーニング) データキュー数の解析に失敗しました。データキュー数=xを仮設定します
- (W) 周期ハンドラ数が解析できませんでした。"周期ハンドラ数=%d"を仮設定します。
(ワーニング) 周期ハンドラ数の解析に失敗しました。周期ハンドラ数=xを仮設定します
- (W) 周期タイマハンドラの周期時間が解析できませんでした。"周期タイマハンドラの周期時間=%d"を仮設定します。
(ワーニング) 周期タイマハンドラの周期時間の解析に失敗しました。周期タイマハンドラの周期時間=xを仮設定します
- (W) タスクの設定が解析できませんでした。仮設定します。タスク一覧で内容確認ください。
(ワーニング) タスク設定の解析に失敗しました。タスク一覧で内容確認ください
- (W) イベントフラグ属性が解析できませんでした。仮設定します。イベントフラグ一覧で内容確認ください。
(ワーニング) イベントフラグ属性の解析に失敗しました。イベントフラグ一覧で内容確認ください

- (W) セマフォ属性が解析できませんでした。仮設定します。セマフォ一覧で内容確認ください。
(ワーニング) セマフォ属性の解析に失敗しました。セマフォ一覧で内容確認ください
- (W) データキュー属性が解析できませんでした。仮設定します。データキュー一覧で内容確認ください。
(ワーニング) データキュー属性の解析に失敗しました。データキュー一覧で内容確認ください
- (W) 周期ハンドラ属性が解析できませんでした。仮設定します。周期ハンドラ一覧で内容確認ください。
(ワーニング) 周期ハンドラ属性の解析に失敗しました。周期ハンドラ一覧で内容確認ください
- (W) 構築ファイル slos.def が解析できませんでした。仮設定します。有効無効設定を確認してください。
(ワーニング) 構築ファイル slos.def の解析に失敗しました。有効無効設定を確認してください

B.2 構築ファイル作成時

- (E) バックアップファイルが作成できませんでした : "ファイル名"
(エラー) バックアップファイルが作成に失敗しました
- (E) 構築ファイルが作成できませんでした : "ファイル名"
(エラー) 構築ファイルが作成に失敗しました
- (W) ID=x のタスクはデフォルト設定のままです。
(ワーニング) ID=x のタスクはデフォルト設定のままです
- (W) ID=x のイベントフラグはデフォルト設定のままです。
(ワーニング) ID=x のイベントフラグはデフォルト設定のままです
- (W) ID=x のセマフォはデフォルト設定のままです。
(ワーニング) ID=x のセマフォはデフォルト設定のままです
- (W) ID=x のデータキューはデフォルト設定のままです。
(ワーニング) ID=x のデータキューはデフォルト設定のままです
- (W) ID=x の周期ハンドラはデフォルト設定のままです。
(ワーニング) ID=x の周期ハンドラはデフォルト設定のままです
- (W) ID=x のタスクは、スタックサイズが不正です。
(ワーニング) ID=x のタスクは、スタックサイズが不正です

Smalight®
Smalight® Configurator V1 リファレンスマニュアル
SL0000CFG01J-12

発行年月	2018年5月	第12版
発行	マクセルシステムテック株式会社	
編集	マクセルシステムテック株式会社	

©マクセルシステムテック株式会社 2007,2018